

保護者 各位

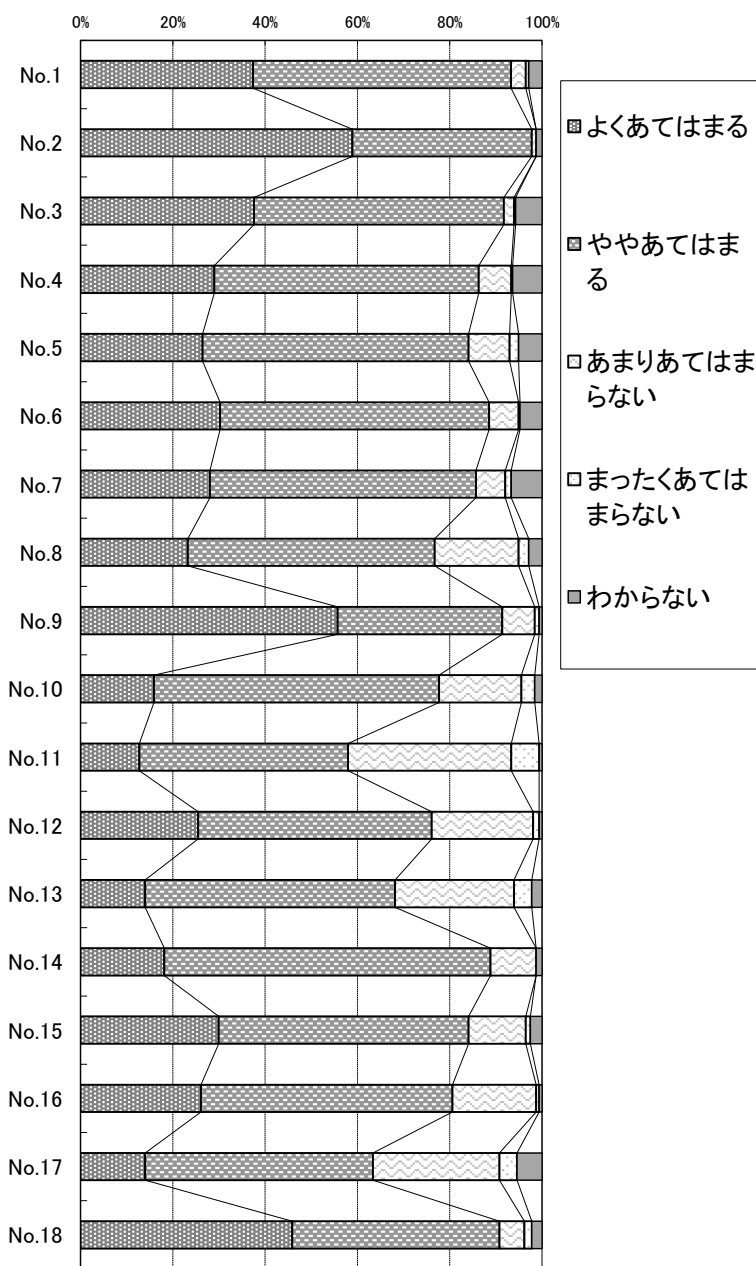
福井市社西小学校  
校長 濱野 泰臣

### 「本校の教育活動に関するアンケート」結果について

過日、保護者の皆様にご協力いただきました「本校の教育に関するアンケート」の集計が終わりましたので、ご報告いたします。お忙しい中ありがとうございました。結果につきましては家庭地域学校協議会の中でも話し合いましたが、課題となる項目については次年度の学校教育活動の中で改善に努めていきたいと思っております。今後とも本校教育活動に対しましてご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。  
また、学校への要望につきましても、十分検討し、今後の教育活動の参考にさせていただきます。どうもありがとうございました。

#### 令和5年度 保護者アンケート結果

No.1	学校は、「PTA総会」「懇談会」「学校だより・学年だより」等を通して、保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている
No.2	学校は、授業参観や学校行事などの教育活動の公開を十分行っている
No.3	学校は、授業や学校行事等を工夫して、教育活動の充実に努めている
No.4	学校は、体力の向上や健康な体づくりに力を入れて取り組んでいる
No.5	学校は、校舎内外の清掃や整備が行き届いている
No.6	学校は、不審者への対応や交通安全など安全面について適切に指導している
No.7	学校は、子どもたち一人一人を大切にし、温かく指導している
No.8	子どものことで、気軽に学校に相談できる
No.9	電話をかけた時や学校を訪れた時の教職員の対応はよい
No.10	我が子は、基礎基本の学習内容をしっかり身につけている
No.11	我が子は、家庭学習に意欲をもって取り組んでいる
No.12	我が子は、早寝・早起きなど、規則正しい生活習慣が身に付いている
No.13	我が子は、場にあったあいさつができています
No.14	我が子は、他に対する思いやりの心が育っている
No.15	我が子は、学校生活を楽しくしており、友人関係も良好である
No.16	我が子は、学校であったことをよく話してくれる
No.17	我が子は、将来についての夢や希望、目標を持っている
No.18	教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取組を理解できる。

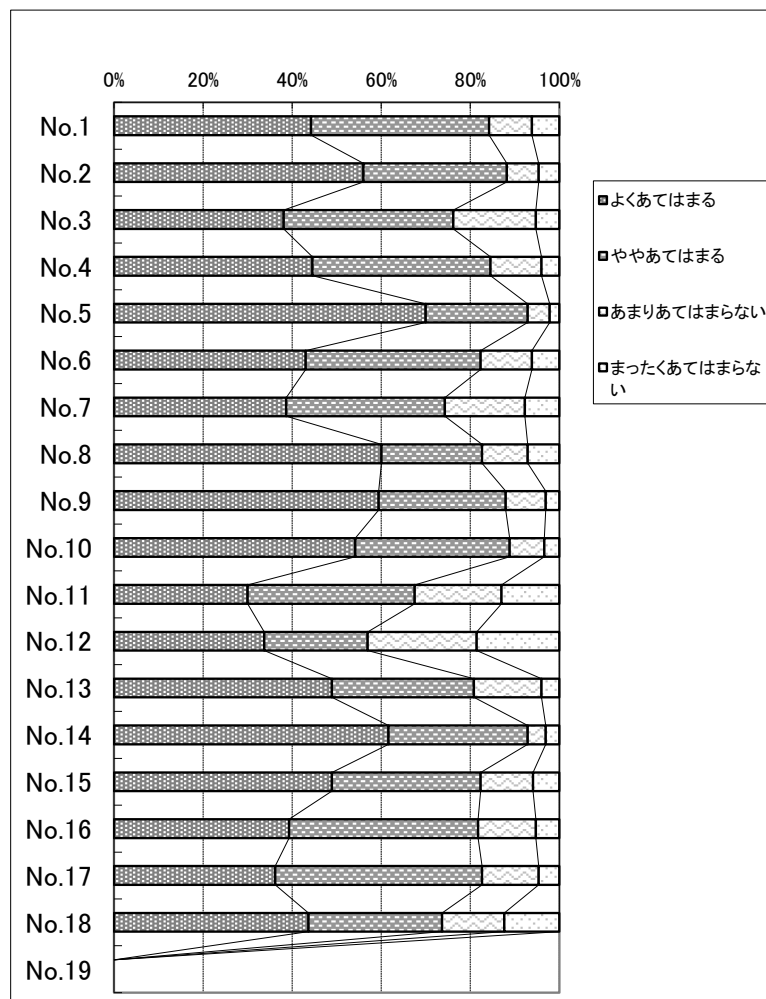


は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%以下

## R5年度 児童アンケート結果(全学年)

No.1	自分は、学校が楽しい。
No.2	自分は、みんなで何かをするのは楽しい。
No.3	自分は、授業に自分から主体的に取り組んでいる。
No.4	自分は、授業がよく分かる。
No.5	先生は、授業内容を一生懸命教えてくれる。
No.6	自分は、道徳の時には考えを深めることができている。
No.7	自分は、いじめを見たら大人に知らせたり、とめたりすることができる。
No.8	自分は、将来の夢やめざす目標をもっている。
No.9	自分は郷土(ふるさと)福井を大切にしたいという気持ちをもっている。
No.10	先生は、相談をすると対応してくれる。
No.11	自分は、みんなのために役に立つことができる。
No.12	自分は、学校で本を読んでいる。
No.13	自分は、お客様や先生、友達、地域の人にあいさつができている。
No.14	自分は、下足を整理し入れることができる。
No.15	自分は、体育の時間や休み時間に、運動にはげんでいる。
No.16	自分は、相手の気持ちを考えてやさしく接することができる。
No.17	自分は、時間を守って行動することができる。
No.18	自分には、良いところがある。
No.19	

は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%以下



### ●保護者アンケート

「1情報発信」「2学校公開」「3教育活動の充実」「9教職員対応」「18働き方改革」等、学校の取組に関する項目は肯定的な回答が90%を超えています。しかし、「8学校への相談」については昨年度の結果より83%→77%と減少しました。また、「10学習の定着」「12規則正しい生活」「13場に合ったあいさつ」「17将来の夢・希望」等ご家庭での様子で肯定的な回答が少ないものがありました。ただし、これらは昨年度の結果でも同じ傾向が見られましたが、いずれも1～3%程度の増加が見られます。しかし、「11家庭学習」についてだけは、68%→58%と大幅に減少しました。学校では、家庭学習の在り方を見直し、引き続き児童が自主的に学習に取り組める課題設定の工夫に取り組んでいきます。

### ●児童アンケート

多くの項目で児童の80%以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えていました。特に、「2集団活動の満足度」「5教師の熱意」「9郷土を大切に作る心」「10教師への相談」「14下足の整理」がよく、人間関係の良好さや学校での活動の頑張りがうかがえます。特に、昨年度は80%を下回っていた「8将来の目標」「16相手を思いやる心」については5%程度の増加が見られました。しかし、「3主体的な授業態度」や「7いじめ対応」「11自己有用感」「12読書」「18自己肯定感」は昨年同様、80%を下回りました。特に読書は肯定的な回答が57%と他の項目と比べても低く、休み時間等に読書をしている児童は多くはありません。毎週決まった時間、学級全員が本を読む時間を設定するなど工夫をいたします。

### ○考察と対策について

ICT活用能力を伸ばすことは、今後社会を生きていくために必要なことと考えます。しかし、「家庭学習」や「読書」は、インターネットやゲームなどの家庭での過ごし方とも関連があるように思います。基本的な生活習慣（特に睡眠）や情報機器のルールづくりなど、今後もPTAと連携しながら指導・啓発を行っていきます。

「相手を思いやる心」は増加した一方、「いじめ対応」は例年80%以上を達成するのが難しい項目です。みんなで一緒に解決していこうとする集団づくりをするとともに、どのような行為がいじめなのか具体的に学習し、年間を通して指導していきます。

今回の結果を真摯に受け止め、今後の教育活動等の改善に生かしていきます。家庭と学校が連携しながら、児童のよりよい成長に努めていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いします。